

大会総括

特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会 国際担当執行理事
国際スポーツ団体総連合 (SportAccord/IBGAISF) 前理事
特定非営利活動法人日本フライングディスク協会 会長
上智大学 教授
師岡 文男



第9回ワールドゲームズ・カリ大会の成果

南アメリカ大陸で初めて開催された2013年のワールドゲームズ・カリ大会には過去最多の98カ国が参加し、大会を後援する国際オリンピック委員会 (IOC) のロゲ会長 (当時) が開会式で挨拶した。ブエノスアイレスでのIOC総会の41日前という大会日程が影響したか、3人のIOC次期会長候補が出席し、2001年の秋田大会を除けば初めて文部科学省から義家弘介政務官をはじめとする視察団が開会式に出席してくださった。オリンピックムーブメントとしてワールドゲームズが開催されていることを認識していただけたことは大きな収穫といえるであろう。



開会式で挨拶するIOCロゲ会長 (当時)

今回のワールドゲームズは、以下の点で「第2のオリンピック」としての意義と力を示した大会であると考えられる。

- ① 当分夏季オリンピック競技大会を開催することが無理な都市でも、ワールドゲームズならば新しく施設を建設する必要がないので、オリンピックに準じる規模の大会でも開催は可能であることを実証した。カリ大会は、コロンビアの大統領・副大統領も出席し、国を挙げてのイベントとなり、連日観客席が満員になった他、海外からも多くの観客が訪れ、大会の様子は120カ国以上に放送され、日本でもテレビ6局が全国放送した。
- ② 国を挙げて厳重な警備体制が敷かれたことで、外務省が「渡航の是非検討」を勧告しているカリ市でも大会期間中大きな事故はなかった。また、タクシーの中に落とした筆者のカメラや現地ガイドの携帯電話が戻ってくるなど、大会組織委員会も驚く、外国人に対する「おもてなし」が生まれたことはワールドゲームズがオリンピック級の国際イベントとしての機能を発揮していることに他ならない。
- ③ 2020年のオリンピックに新規採用される候補として最初に選ばれた7競技 (空手道、ローラースポーツ、ソフトボール、スポーツクライミング、スカッシュ、水上スキー、武術) は、全て

ワールドゲームズ競技であり、次期オリンピック競技候補がひしめく大会となった。また、今回実施された7人制ラグビーは、2016年リオデジャネイロ大会からはオリンピック公式種目になるように、ワールドゲームズはオリンピックを補完する兄弟のような関係の大会になってきている。

- ④ ワールドゲームズでは、「競技」としてはオリンピック競技であってもその「種目」がオリンピックに採用されていなければ参加が可能になるため、フィールドアーチェリー (アーチェリー)、カヌー・ボロ・カヌー・マラソン (カヌー)、エアロビック・新体操種目別・スポーツアクロ体操・トランポリンシンクロ・ナイズド・タンブリング (体操)、ビーチハンドボール (ハンドボール)、デュアスロン (トライアスロン) がワールドゲームズでは実施されている。
- ⑤ IOCが国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) と締結した覚書に基づきIOCが後援する大会であることが認知され、スポーツ振興基金から今大会に出場する日本人選手の渡航費の一部に助成金が補助された他、日本オリンピック委員会 (JOC) からもホームページでの広報や選手壮行会での青木副会長からの励ましのお言葉、日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) からの支援などが得られた。

『オリンピック憲章』の根本原則には、「スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならない」と“Sport for All”の推進を謳っている。それは、オリンピックムーブメントはIOCとIWGAの覚書に示されたように、単にオリンピックに採用された種目だけの普及をすることだけではないことを物語っている。

今後もワールドゲームズは、非五輪種目の大会としてオリンピックを開催できない地方都市で開催され続けることにより、オリンピックムーブメントをオリンピック競技大会と車の両輪として推進していくことが期待されている。

成熟社会の中で迎える2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催準備が、オリンピックムーブメントの正しい理解、普及につながり、オリンピックと兄弟関係で共に“Sport for All”を目指すワールドゲームズの価値や役割の認識が広まっていくことを期待したい。